

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

第 5 回検討会（水環境）

◎足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 第 5 回検討会（水環境）が平成 21 年 1 月 26 日に福井県国際交流会館にて開催されました。

足羽川ダム工事事務所長挨拶



足羽川ダム工事事務所 川崎将生所長の挨拶

出席委員



第 5 回検討会では、水環境の各項目を専門とする 3 人の委員により、水環境についてご検討いただきました。

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 検討会 委員名簿

担当分野	氏 名		現 職 等
水 環 境 (水 質)	奥村 充司	おくむら みつし	福井工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授
水 環 境 (地下水の水位)	福原 輝幸	ふくはら てるゆき	福井大学大学院工学研究科 教授
河川物理環境	角 哲也	すみ てつや	京都大学大学院工学研究科 准教授

第5回検討会での審議骨子

I. 事務局からの報告

事務局より以下の事項が報告されました。

- ・水質についての予測、保全措置の検討結果
- ・地下水の水位についての予測、保全措置の検討結果
- ・今後の予定

II. 委員からの主な意見

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

指摘事項	意見内容	事務局回答
水質	工事中（試験湛水以外の期間）の保全措置を沈砂池の設置としているが、どのくらいの生起確率降雨を対象としているか。	生起確率ではなく、30mm/日 相当の降雨時に、各工事区域の裸地からの流出量を処理する規模としている。
	試験湛水中の保全措置により、SSの低減効果は得られているのか。	試験湛水終了間際にSSの増加が見られるため、保全措置として、試験湛水終了間際に一旦貯留し、自然出水に併せて放流することにより希釈することを考えている。これにより、SS濃度が低減している。
	試験湛水中の水温の保全措置を、表層取水設備の設置としているが、下層から表層への取水設備切替え時の水温変化の緩和として、表層と下層の同時放流なども考えられるのではないか。	放流設備の切替え時期、操作方法については、今後の放流設備の設計等にあわせて詳細に検討していく。
	存在・供用時の濁りについて、洪水のパターンによっては、保全措置の効果が小さい場合も考えられる。保全措置は他の案についても検討しているのか。貯まった濁質を放流しないような措置をとればSS濃度は下がるのではないか。	濁質を貯める案も含め、複数の代替案を検討した中で、他の環境への影響、効果の不確実性、コスト等を考慮し、総合的に効果のある保全措置としている。
	試験湛水時と同じように、存在・供用時も一時貯留して出水を待つような保全措置を実施できないか。	存在・供用時にSS濃度を低減させるような出水を待つことになると、その間、流水型ダムの特性を失うことになるとともに、他の環境への影響も懸念されるため、実施しないこととしている。